

藤沢市 令和4年度事務事業評価シート(令和3年度分)

No. 2

事務事業名	市民会館整備費										担当課	部課名	生涯学習部文化芸術課			
予算科目コード	会計	01	款	02	項	01	目	14	細目	002	説明	01	課等の長	井澤 邦章	電話	6743

1. 事業概要

事業開始年度	昭和 43 年度	終了(予定)年度	未定 年度	事業の性質	任意自治事務		
事業概要	老朽化した市民会館を、市民ギャラリーや南市民図書館などと複合化した施設として、再整備するための取組を行う。						
事業目的及び必要性	本市の文化・芸術の拠点として、「ふじさわ文化」を創造し発信する場として、建て替えによる再整備を行う。						
対象	1. 個人	市民				438,968	人
根拠法令等							

藤沢市市政運営の総合指針2024及び長期的な視点(SDGsの視点)

まちづくりコンセプト		重点施策名
<ul style="list-style-type: none"> ■ サステナブル藤沢 ■ インクルーシブ藤沢 ■ スマート藤沢 (その理由) 再整備する施設として、ハード・ソフト両面から持続可能であり、年代等を問わず様々な人々が集い、活動する文化拠点となるよう、その理念等を検討している。また、DXの視点をもって整備を進めることで、利用者の利便性向上等を図る必要がある。	次世代につなげる歴史・文化施策の推進と多彩な魅力の発信	
		指針体系コード
		5-4-11
2030年又は事業終了時の望ましい姿		その他の計画との関連
年代等を問わず様々な人々が集い、活動することで新たな文化を生み出す、湘南の文化芸術の拠点施設として、魅力と活気にあふれた市民の誇りとなる場所となっている。		藤沢市文化芸術振興計画、藤沢市都市マスタープラン、藤沢市公共施設再整備基本方針、第3次藤沢市公共施設再整備プラン
		貢献する主なSDGsのゴール
		4 質の高い教育をみんなに
		11 住み続けられるまちづくりを
		17 パートナーシップで目標を達成しよう

関連の深い「市民生活に関する意識調査結果」				
市民意識調査における質問項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
公共施設を次世代のために、より良い状態で引き継いでいると感じますか	2.83 点	2.80 点	2.83 点	2.73 点
	点	点	点	点

令和3年度 支出済額 15,839 千円	事業費節別内訳		
	費目	支出済額(千円)	主な事業内容
	報酬	457 千円	市民会館等再整備基本構想策定検討委員報酬
	委託料	15,382 千円	市民会館等再整備基本構想策定支援委託
【参考】 令和4年度 予算額 200 千円	事業費節別内訳		
	費目	予算額(千円)	主な事業内容
	報償費	200 千円	(仮称)市民会館機能検討委員謝礼

2. 事務事業に関わる職員数(任用形態別)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
常時勤務職員※	0.30人工	1.20人工	1.00人工	1.00人工
短時間勤務職員(再任用・任期)	0.00人工	0.00人工	0.00人工	0.80人工
非常勤職員	0.00人工	0.00人工		
合計	0.30人工	1.20人工	1.00人工	1.80人工

※再任用・任期付(フルタイム勤務)を含み、会計年度(フルタイム勤務)を除く

会計年度任用職員(配置数)			0.00人	0.00人
---------------	--	--	-------	-------

3. 事業実施内容・成果

令和3年度 事業実施 内容	藤沢市民会館等再整備基本構想の策定を進めるため、基本構想策定支援委託を行い、基本構想策定検討委員会を開催した。 ・藤沢市民会館等再整備基本構想策定検討委員会の開催(全7回) ・藤沢市民会館等再整備ワークショップの開催(全3回 参加者数27人) ・パブリックコメントの実施(意見提出者53人、意見総数99件) ・#ふじキュン課(神奈川県立湘南台高等学校3年生選択科目履修生)との意見交換						
	指標名	単位	平成30年度 目標値	令和元年度 目標値	令和2年度 目標値	令和3年度 目標値	備考
成果目標	参考 藤沢市民会館等再整備基本構想の策定						
	指標名	単位	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	備考
活動実績	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	実績値	備考
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	実績値	備考
成果実績	数値で表せない効果 藤沢市民会館等再整備基本構想策定に係る検討委員会やパブリックコメントなどを実施し、基本構想策定に向けて進捗が図られた。						
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	実績値	備考

4. コスト分析

年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
コスト	行政費用(フルコスト) A	0	19,746	7,792	30,295			
	(1)現金を伴う支出 (千円)	0	16,121	8,400	30,294			
	事業費(支出済額)		4,459	0	15,839			
	償還金利子		0	0	0			
	人件費合計(①+②+③)	0	11,662	8,400	14,455			
	①常時勤務職員等の給与等		10,969	7,859	14,037			
	②会計年度任用職員の報酬等		0	0	0			
	③退職金相当額		693	541	418			
	(2)現金を伴わない支出 (千円)	0	3,625	-608	1			
	①減価償却費		0	0	0			
	②退職給与引当金繰入額		3,625	-608	1			
	③不納欠損額		0	0	0			
	④その他()		0	0	0			
	行政収益(事業収入) B	0	0	0	15,381			
収入	(3)現金を伴う収入 (千円)	0	0	0	15,381			
	①分担金及び負担金 c		0	0	0			
	②使用料及び手数料 d		0	0	0			
	③国庫支出金		0	0	0			
	④県支出金		0	0	0			
	⑤その他(公共施設整備基金繰入金)		0	0	15,381			
(4)現金を伴わない収入 (千円)	0	0	0	0				
収入未済増減額		0	0	0				
収支差額(純費用) A-B E	0	19,746	7,792	14,914				
分析指標	項目	単位	単位	単位	単位			
	F							
	1単位あたりの総費用 A/F (円)		-	-	-			
	市民1人あたりの負担額 E/人口 (円)	0.00	429,317	45.60	433,060	17.91	435,121	33.97
受益者負担率 (C+D)/A (%)			0.00	0.00	0.00	0.00		

※1 事業費(支出済額)・・・令和元年度以前の事業費は、支出済額から非常勤報酬額(「②会計年度任用職員給与合計」欄の数値)を除いた額

※2 常時勤務職員等の給与等・・・任用形態別の平均給与に人工数を乗じ算出

※3 会計年度任用職員の報酬等・・・令和元年度以前の数値は、非常勤職員報酬額を示すもの

※4 退職金相当額・・・年度内に発生した退職金総額を年度当初一般職員数で除し、事業に従事する一般職員数を乗じたもの

5. 事務事業を進めていく上での課題と課題解決の取組

(1) 令和2年度末時点の課題	基本構想の策定に向けて、多くの意見を聞きながら事業に取り組む必要がある。
(2) (1)解決のための令和3年度の取組	有識者や市民等を構成員とする藤沢市民会館等再整備基本構想策定検討委員会を設置し、基本構想の策定に向けた議論を行った。併せて、市民ワークショップ等を開催し様々な意見を伺った。
(3) 令和3年度末時点の課題	基本構想の策定に向けて多くの意見を取りまとめるため、基本構想の策定期間を延期した。引き続き基本構想の策定を進めるとともに、浸水対策施設や奥田公園などが再整備事業の対象施設として関連してきたため、進め方の再構築が必要である。 市民会館の機能などについて、継続して詳細を検討する必要がある。
(4) (3)解決のための今後の取組	基本構想の策定期間を含め再整備スケジュールの見直しを行うとともに、再整備事業全体を統括する主管課を企画政策課に変更する。市民会館の機能などについて検討を進めるため、市民等からの意見聴取を行う。

6. 事務事業の特徴

(1) 事業の性質	① 法的根拠	<input type="radio"/> ア=法令等の根拠はないが、市の裁量により実施するもの(イ～オ以外) イ=市の条例等で規定されている事業 ウ=県の条例等で事業の実施について推奨・規定されているもの エ=国の法律で事業の実施について推奨・規定されているもの オ=法律等により、事業の実施が義務付けられているもの(市に裁量の余地がないもの)	
	② 事業実施の位置づけ(市民へのサービス提供状況)	<input type="radio"/> ア=国、県、他自治体や民間等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの イ=国、県、他自治体等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの ウ=国、県、他自治体等も同種のサービスを提供しているが、一部のサービスは本市のみが提供しているもの エ=本市のみがサービスを提供し、よりよい生活環境の実現、地域の発展、市民生活の向上を目的とするもの オ=本市のみがサービスを提供し、生活基盤の維持・確保、市民の権利維持・安全確保を目的とするもの	
	③ 事業期間	<input type="radio"/> ア=恒久的に実施するもの イ=年限の定めのないもの <input type="radio"/> ウ=時限的に実施する事業で、終了まで5年以上あるもの エ=時限的に実施する事業で、今後2～4年で終了するもの オ=時限的に実施する事業で、本年度で終了するもの	
	(2) 財政的な特徴	④ 事業費…令和3年度支出済額	<input type="radio"/> ア=300,000千円以上 イ=100,000千円以上～300,000千円未満 ウ=30,000千円以上～100,000千円未満 <input type="radio"/> エ=5,000千円以上～30,000千円未満 オ=5,000千円未満
		⑤ 一般財源比率…事業費に占める一般財源の割合	<input type="radio"/> ア=80%以上 イ=50～80%未満 ウ=30～50%未満 エ=10～30%未満 <input type="radio"/> オ=10%未満
		⑥ 固定的経費比率…行政費用(フルコスト)に占める固定的な経費の割合	<input type="radio"/> ア=10%未満 イ=10～30%未満 <input type="radio"/> ウ=30～50%未満 エ=50～80%未満 オ=80%以上

(3) 事業の種類	(4) その他の事業特性
3. 施設等整備	

7. 事務事業を取り巻く環境の現状と今後の予測

社会情勢等	文化芸術活動の拠点としての存在価値とともに、市民活動や周辺地域へ与える影響などについても検討を深め、整備を進めていく必要がある。	
他市等の事例	小田原市の小田原三の丸ホール、平塚市のひらしん平塚文化芸術ホールが令和3年度中に開館した。	
市民ニーズ	把握方法	基本構想(素案)に対するパブリックコメントの実施(11月25日～12月24日 意見提案者53人 意見総数99件)
	把握内容	<ul style="list-style-type: none"> 再整備後の市民会館等における施設設備や機能に対する要望 複合化に対する意見等
	対応等	基本構想の公表に合わせて、パブリックコメントの結果を公表する。また、今後も事業の進捗に応じて市民への情報提供を行う。

8. 事務事業の評価と今後の方針

評価	まちづくりの視点や民間事業者等からの意見を反映させるため、年度末に予定していた基本構想の策定期間を変更することとなったが、藤沢市民会館等再整備基本構想策定検討委員会の開催や市民ワークショップの開催等、その策定に向けて事業を進めることができた。	
今後の方針	まちづくりテーマ	⑤ 未来を見据えてみんなではじめる
	事業の方向性	現状維持
	策定される基本構想やこれまで把握した意見を参考としつつ、より具体的な市民会館の機能についての検討を深めていく。奥田公園を含む市民会館エリアの再整備事業として、事業主管課を企画政策課に移管するとともに、今後も関係各課と連携しながら、文化芸術課として必要な課題の整理を進める。	

9. 部長確認欄

部名	生涯学習部	氏名	板垣 朋彦	確認日	2022/9/2
----	-------	----	-------	-----	----------

事務事業名	アートスペース運営管理費								担当課	部課名	生涯学習部文化芸術課					
予算科目コード	会計	01	款	11	項	06	目	04	細目	001	説明	04	課等の長	井澤 邦章	電話	6743

1. 事業概要

事業開始年度	平成 27 年度	終了(予定)年度	未定 年度	事業の性質	任意自治事務		
事業概要	藤沢市アートスペース(FAS)をココテラス湘南6階にて運営し、若手芸術家等の創作活動や展示・発表の支援を行うとともに、市民等に身近な場所で美術の魅力に触れる機会や学ぶ場を提供することにより、美術の振興を図る。						
事業目的及び必要性	美術を中心とした芸術文化の創造・発信の拠点として、若手芸術家等の活動を支援するとともに、市民等に身近な美術鑑賞の場を提供することにより、市民文化の向上に寄与することを目的とする。市民の心豊かな生活を支えるために必要な施設である。						
対象	1. 個人	市民				438,968 人	
根拠法令等	条例(市)	藤沢市アートスペース条例・施行規則					
藤沢市市政運営の総合指針2024及び長期的な視点(SDGsの視点)							
まちづくりコンセプト				重点施策名			
<input checked="" type="checkbox"/> サステナブル藤沢 <input checked="" type="checkbox"/> インクルーシブ藤沢 <input type="checkbox"/> スマート藤沢 (その理由) 市所蔵の美術品や本市にゆかりのある作家の企画展を実施することは、本市の文化資源の再認識を促すとともに郷土愛をはぐくむことにつながる。また、湘南ゆかりの若手芸術家に対する制作・展示支援など、将来を見据えた事業展開を行う。地域へのアウトリーチ事業を通じ、多くの人に美術作品と触れ合う機会の提供に努めている。				次世代につなげる歴史・文化施策の推進と多彩な魅力の発信			
				指針体系コード			
				5-4-21			
2030年又は事業終了時の望ましい姿				その他の計画との関連			
支援した若手芸術家が成長し、日本を代表する作家となる。また、FASで行っている公募展に入選することが若手芸術家のステータスとして浸透しており、多くのすぐれた作品が応募されるようになる。				藤沢市文化芸術振興計画			
				貢献する主なSDGsのゴール			
				3 すべての人に健康と福祉を			
				4 質の高い教育をみんなに			
				17 パートナリーシップで目標を達成しよう			
関連の深い「市民生活に関する意識調査結果」							
市民意識調査における質問項目		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
市内に文化的な魅力があると感じますか		2.74 点	2.77 点	2.88 点	2.93 点		
		点	点	点	点		

令和3年度 支出済額	事業費節別内訳		
	費目	支出済額(千円)	主な事業内容
	役務費	2,836 千円	展示手数料、冊子デザイン料、企画展作品運搬料ほか
	委託料	3,763 千円	サイネージ運営、HP保守、清掃ほか
	使用料及び賃借料	26,795 千円	ココテラス6階施設賃借料、印刷機賃借料ほか
43,638 千円	負担金補助及び交付金	6,932 千円	光熱水費等負担金
	その他	3,312 千円	アートスペース運営協議会委員報酬、作品制作謝礼ほか
【参考】 令和4年度 予算額	事業費節別内訳		
	費目	予算額(千円)	主な事業内容
	役務費	3,759 千円	展示手数料、冊子デザイン料、企画展作品運搬料ほか
	委託料	3,044 千円	サイネージ運営、HP保守、清掃ほか
	使用料及び賃借料	125 千円	印刷機賃借料ほか
15,171 千円	負担金補助及び交付金	480 千円	光熱水費負担金
	その他	7,763 千円	アートスペース運営協議会委員報酬、作品制作謝礼ほか

2. 事務事業に関わる職員数(任用形態別)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
常時勤務職員※	2.00人工	2.00人工	2.00人工	2.00人工
短時間勤務職員(再任用・任期)	0.00人工	0.00人工	0.00人工	0.00人工
非常勤職員	3.20人工	3.00人工		
合計	5.20人工	5.00人工	2.00人工	2.00人工
※再任用・任期付(フルタイム勤務)を含み、会計年度(フルタイム勤務)を除く				
会計年度任用職員(配置数)			6.50人	6.50人

3. 事業実施内容・成果

令和3年度 事業実施 内容	若手芸術家の支援や、身近な場所で美術に触れることができる企画展及び関連イベントの開催、その他アートスペースの運営管理業務の実施 ・「招き猫亭コレクション 夏ー猫びヨリ」等、3つの企画展と「みんなでつくろう！にゃんにゃん展」など3つの特別企画展を開催 開催日数285日(内22日は市民ギャラリー)、来館者数11,943人 ・企画展関連イベント及びその他ワークショップなど主催事業の開催 開催回数53回、参加者数465人 ・公民館等との共催事業(パブリックアート散歩、移動美術館等)の開催 開催回数12回、参加者数251人 ・貸館利用来館者数353人						
	指標名	単位	平成30年度 目標値	令和元年度 目標値	令和2年度 目標値	令和3年度 目標値	備考
成果目標	若手芸術家支援数(企画展)	人	17	17	10	10	
	若手芸術家支援数(ワークショップ等)	人	12	12	12	12	
参考							
活動実績	指標名	単位	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	備考
	若手芸術家支援、美術振興のための事業実施状況	件	6	6	5	6	
	他施設との交流事業実施状況	件	2	3	2	8	
成果実績	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	実績値	備考
	若手芸術家支援数(企画展)	人	12	13	9	9	
	若手芸術家支援数(ワークショップ等)	人	13	11	2	3	
	数値で表せない効果 展覧会、ワークショップなどの事業実施を通して、美術への興味関心を高め、文化振興に寄与している。						

4. コスト分析

年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
コスト	行政費用(フルコスト) A	71,663	88,090	91,197	82,511			
	(1)現金を伴う支出 (千円)	77,208	84,630	87,907	82,335			
	事業費(支出済額)	56,690	60,059	55,913	43,638			
	償還金利息	0	0	0	0			
	人件費合計(①+②+③)	20,518	24,571	31,994	38,697			
	①常時勤務職員等の給与等	11,889	15,059	15,718	19,171			
	②会計年度任用職員の報酬等	8,629	8,934	15,194	18,690			
	③退職金相当額	0	578	1,082	836			
	(2)現金を伴わない支出 (千円)	-5,545	3,460	3,290	177			
	①減価償却費	695	439	277	175			
	②退職給与引当金繰入額	-6,240	3,021	3,013	2			
	③不納欠損額	0	0	0	0			
	④その他()	0	0	0	0			
	行政収益(事業収入) B	240	0	668	4,127			
(3)現金を伴う収入 (千円)	240	0	668	4,127				
①分担金及び負担金 c	0	0	0	0				
②使用料及び手数料 d	240	0	66	66				
③国庫支出金	0	0	0	0				
④県支出金	0	0	0	0				
⑤その他(文化振興基金繰入金ほか)	0	0	602	4,061				
(4)現金を伴わない収入 (千円)	0	0	0	0				
収入未済増減額	0	0	0	0				
収支差額(純費用) A-B E	71,423	88,090	90,529	78,385				
分析指標	項目	若手芸術家支援数(企画展) F	12	13	9	9		
			単位 人	単位 人	単位 人	単位 人		
	1単位あたりの総費用 A/F (円)	5,971,916.67	6,776,153.85	10,133,000.00	9,167,936.68			
	市民1人あたりの負担額 E/人口 (円)	166.36	429,317	203.41	433,060	208.05	435,121	178.57
受益者負担率 (C+D)/A (%)		0.00	0.00	0.00	0.00			

※1 事業費(支出済額)・・・令和元年度以前の事業費は、支出済額から非常勤報酬額(「②会計年度任用職員給与合計」欄の数値)を除いた額

※2 常時勤務職員等の給与等・・・任用形態別の平均給与に人工数を乗じ算出

※3 会計年度任用職員の報酬等・・・令和元年度以前の数値は、非常勤職員報酬額を示すもの

※4 退職金相当額・・・年度内に発生した退職金総額を年度当初一般職員数で除し、事業に従事する一般職員数を乗じたもの

5. 事務事業を進めていく上での課題と課題解決の取組

(1) 令和2年度末時点の課題	新型コロナウイルス感染拡大防止の影響で、来場できない方に向けた作品鑑賞機会の提供方法を検討する必要がある。 文化活動が制限される中、若手芸術家が作品発表や制作活動を行う場を確保する必要がある。 所蔵作品の調査研究及び活用検討。
(2) (1)解決のための令和3年度の取組	動画、SNS等を活用し、展覧会情報の積極的な発信を行った。また、地域の公民館と連携した事業として、公民館での美術作品の展示を行った。 これまでにFASで展覧会等を行った若手芸術家に依頼し、滞在制作やワークショップ等のイベントを行った。 所蔵作品の調査を行い作品の来歴、状態や内容をまとめる作業を進めた。
(3) 令和3年度末時点の課題	新型コロナウイルス感染症の状況は先が見えないが、企画展の開催を進めるとともに、来場できない方に向けた作品鑑賞機会の提供方法を引き続き検討する必要がある。 若手芸術家への支援として、作品発表や制作活動の場を確保する必要がある。 所蔵作品の調査研究及び活用検討。
(4) (3)解決のための今後の取組	公民館等への出張講座などをすすめ、企画展への誘客を図るとともに、SNSなどを活用した展覧会内容の発信につとめ、来場が困難な方に対しても作品鑑賞の機会を提供する。 これまでにFASで展覧会等を行った若手芸術家とともに、高校等へのアウトリーチ事業を行い、若手芸術家の制作活動の支援を行う。 所蔵作品の調査をさらに進め、所蔵作品の貸出などについて条件の整理を行う。

6. 事務事業の特徴

(1) 事業の性質	① 法的根拠	ア=法令等の根拠はないが、市の裁量により実施するもの(イ～オ以外) ○ イ=市の条例等で規定されている事業 ウ=県の条例等で事業の実施について推奨・規定されているもの エ=国の法律で事業の実施について推奨・規定されているもの オ=法律等により、事業の実施が義務付けられているもの(市に裁量の余地がないもの)		
	② 事業実施の位置づけ(市民へのサービス提供状況)	ア=国、県、他自治体や民間等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの イ=国、県、他自治体等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの ○ ウ=国、県、他自治体等も同種のサービスを提供しているが、一部のサービスは本市のみが提供しているもの エ=本市のみがサービスを提供し、よりよい生活環境の実現、地域の発展、市民生活の向上を目的とするもの オ=本市のみがサービスを提供し、生活基盤の維持・確保、市民の権利維持・安全確保を目的とするもの		
	③ 事業期間	ア=恒久的に実施するもの ○ イ=年限の定めのないもの ウ=時限的に実施する事業で、終了まで5年以上あるもの エ=時限的に実施する事業で、今後2～4年で終了するもの オ=時限的に実施する事業で、本年度で終了するもの		
	(2) 財政的な特徴	④ 事業費…令和3年度支出済額	ア=300,000千円以上 イ=100,000千円以上～300,000千円未満 ○ ウ=30,000千円以上～100,000千円未満 エ=5,000千円以上～30,000千円未満 オ=5,000千円未満	
		⑤ 一般財源比率…事業費に占める一般財源の割合	○ ア=80%以上 イ=50～80%未満 ウ=30～50%未満 エ=10～30%未満 オ=10%未満	
		⑥ 固定的経費比率…行政費用(フルコスト)に占める固定的な経費の割合	ア=10%未満 イ=10～30%未満 ○ ウ=30～50%未満 エ=50～80%未満 オ=80%以上	
		(3) 事業の種類		(4) その他の事業特性
		2. 施設等維持管理		

7. 事務事業を取り巻く環境の現状と今後の予測

社会情勢等	新型コロナウイルス感染症の状況は落ち着いてきているものの、コロナ以前に完全に戻ることはなかなか考えられない。コロナ禍の経験を踏まえ、様々な文化活動や活動支援のあり方が求められる。	
他市等の事例	平塚市美術館は、2020年からTwitterを新規開設、茅ヶ崎市美術館は2021年から公式YouTubeチャンネルを新規開設するなど、近隣市でもオンライン発信ツールを利用して芸術振興に努めている施設が散見される。イベントについては、徐々に対面式での実施に変更しており、オンラインと対面での発信、芸術振興を継続しているところが多くみられる。	
市民ニーズ	把握方法	展覧会ごとに紙及びウェブでのアンケートを実施。
	把握内容	かこさとしなど有名な藤沢ゆかりの物故作家について知る機会になった、有名な作家についてもっと知る機会がほしい等のご意見をいただいた。また、若手芸術家のインスタレーション作品に触れる貴重な機会になった等のご意見をいただいている。
	対応等	継続して藤沢ゆかりの作家や市所蔵作品の紹介をするとともに、若手芸術家の支援を行う。 令和4年度については、市所蔵作品の物故作家の作品とともに若手芸術家を紹介をする展示を企画。

8. 事務事業の評価と今後の方針

評価	令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響がある中でも、企画展を開催し、若手芸術家の作品や市の所蔵作品等の鑑賞機会を提供することができた。 また、パブリックアート散歩や移動美術館など公民館との共催事業を実施することで、地域の美術作品について再認識していただき、参加者から好評をいただいた。	
今後の方針	まちづくりテーマ	⑤ 未来を見据えてみんなではじめる
	事業の方向性	現状維持
	庁内各課や関係機関と連携し、高校等へのアウトリーチ事業の充実を図っていく。アウトリーチ事業を推進することで、FASについてより多くの市民に知っていただき、FASで行う企画展等への鑑賞者の誘導につなげていく。 また、若手芸術家の支援というFASの運営理念に沿った事業を、強化し進めていく。	

9. 部長確認欄

部名	生涯学習部	氏名	板垣 朋彦	確認日	2022/9/2
----	-------	----	-------	-----	----------